

「再生毛髪的大量調製革新技术開発」プロジェクト
中間評価報告書

日 時: 令和4年 11 月 11 日(金) 14:00~16:00

場 所: WEB による委員会

委 員: 秋枝 静香 株式会社サイフューズ 代表取締役

大政 健史 大阪大学大学院工学研究科 教授

黒田 智生 株式会社ケイエスピー インキュベート投資事業部 部長

酒井 康行 東京大学大学院工学系研究科 教授

報告者: 「再生毛髪的大量調製革新技术開発」プロジェクト プロジェクトリーダー 福田 淳二

上記の日時・場所において、「再生毛髪的大量調製革新技术開発」プロジェクトの中間評価委員会を開催し、事前に提出された当該事業の令和2年度と3年度の研究報告書ならびに、当日のプロジェクトリーダーによる成果報告及び自己評価説明、事務局による特許および決算状況等報告を受け、質疑応答並びに、委員間での評価に関する審議を行い、その結果を以下のようにとりまとめた。

【総評】

プロジェクトとして、しっかりと成果をだし、順調に進められている。研究課題評価委員会としては、中間評価として本研究課題成果は高く評価でき、今後の継続的な支援により、益々発展が見込まれる。詳細については、以下の【研究成果の視点】からのコメントならびに【研究室運営の視点】に記載する。

【研究成果の視点】

研究戦略として、大きく3つの観点から基盤技術確立に取り組んでおり、各々特筆すべき成果があがりつつある。とくに1つ目のアプローチについてはすでに実用化を視野に入れた結果がでていたため、毛髪再生の成果として今後も取り組んでいって欲しい。実用化の観点からは安全性・毒性試験が今後の課題となると予想される。これらの検討に取り組むことにより、実用化の視点からの課題が明確化されると予想され、実用化に向けて着実な一歩となる。

残る2つのアプローチについても、今後、大変大きなポテンシャルが期待され、今後の長期的な取り組みが重要である。これは研究プロジェクトのみならず、機関においても取り組んで頂きた

い。

研究成果の公表については、出すタイミングも含めて、着実になされている。新型コロナ感染症の蔓延により、評価対象の研究期間においては海外への発信は難しかったが、今後は海外への展開ならびに発信も視野に入れて活動して頂きたい。

また、成果の実用化・技術移転のために設立したベンチャーについては、その設立目的・活動共にさらなる発展が望まれる。設立した会社においては、知財の戦略化や、研究開発の戦略化についても視野に入れて活動する必要がある。また導出先の企業を増やす努力についても期待したい。

【研究室運営の視点】

研究の方向性は妥当であり、研究計画に対して順調に進めている。3つの大きなカテゴリーに分けて、それぞれで戦略を立てることにより、研究の方向性も明確になっている。また、共同研究、競争的資金についても十分な実績があがっており、これらを含めた経費の配分、人員体制も適切であった。さらに海外への提携交渉も含めた、海外との共同研究については、さらなる期待をしたい。

令和4年 11 月 14 日

委員長

